もくじ

はじめに 2
この本の特徴 3

1章 いつどんな支援が必要になるの？ 6

地域でくらす① 乳幼児期～学齢期 8
地域でくらす② 青年期 10
地域でくらす③ 高齢期 12
療育手帳はどうして全国一律ではないの？ 14
障害者総合支援法とは 16
［まとめ］障害福祉サービス一覧 18
［コラム1］障害福祉サービスを使うといくらかかる？ 20

2章 相談支援を使ってくらしを組み立てよう 22

障害福祉サービスを使うためには？ 24
相談支援とは？ 26
サービス等利用計画ってなに？ 28
モニタリングとサービス担当者会議 30
［コラム2］意思決定支援ってなに？ 32

3章 どんなサービスを使う？❶ 通うための支援 34

子どもの支援

児童発達支援ってなに？ 36
居宅訪問型児童発達支援ってなに？ 38
保育所等訪問支援ってなに？ 40
放課後等デイサービスは日中一時支援となにが違う？ 42
［まとめ］児童期の障害福祉サービス一覧 44
［コラム3］学校はどう選ぶ？ 46

かよう・はたらく

生活介護はどういうサービスですか？ 48
障害支援区分はどうやって決まる？ 50
自立訓練（生活訓練）ってなに？ 52
就労移行支援ってなに？ 54
就労定着支援ってなに？ 56
就労継続支援A型・B型はなにが違う？① 58
就労継続支援A型・B型はなにが違う？② 60
地域活動支援センターってなに？ 62
［コラム4］学校を卒業したらどうする？ 64
［コラム5］会社で働くことをお手伝いするしくみ 66

4章 どんなサービスを使う？❷ くらしの支援 68

親元を離れてくらす

グループホームではどんなくらし方ができる？ 70
グループホームの「日中サービス支援型」ってなに？ 72
施設入所支援・療養介護 74
一人ぐらしを支える「自立生活援助」って？ 76
［コラム6］地域で暮らすときの場所いろいろ 78

くらしを支える

ホームヘルプ（居宅介護）ってどんなサービスですか？ 80
「出かける」ことをお手伝いするサービス 82
日帰りで預かってくれるサービスはありますか？（日中一時支援） 84
何日間か預かってくれるサービスはありますか？（短期入所） 86
［コラム7］地域生活にお金はどれくらい必要？ 88

高齢期の支援

65歳になったら 介護保険と障害福祉サービス 90
「共生型」ってなに？ 92
終身年金を支払うしくみ 障害者扶養共済制度 94

5章 自分自身を守るために 96

権利擁護

「成年後見制度」ってどんなしくみ？ 98
障害者虐待防止法は障害がある人を守るルール 100
障害者差別解消法
「差別的取り扱い」と「合理的配慮」 102
［コラム8］福祉サービスに納得がいかないときは 104

医療費助成制度

自立支援医療制度とは 106
重度障害者医療費助成制度とは 108

ご家族・支援者・教員の皆さまへ 110
おわりに 116
さくいん 118

サンクスシェア

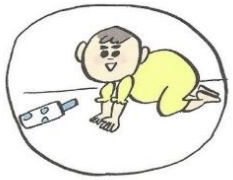
乳幼児期〜学齢期

すこやかに育つ

障害のあるなしにかかわらず、今後の成長にかかわる大切な時期。学齢期には、教育と福祉の連携が重要です。

乳幼児期

生まれたときに障害や病気があることが分かったら、入院中に障害者手帳や福祉サービスを手続きすることもあるでしょう。大きな病院であれば「医療福祉相談室」などの窓口があり、医療ソーシャルワーカーが相談に乗ってくれます。また、市町村の「保健センター」へ相談する方法もあります。



未就学期

体の発育や言葉・行動などコミュニケーション面でも、発達が著しい時期です。市町村で1歳半や3歳時の定期健診があり、そこで障害や発達の遅れが分かる場合があります。

障害があることが分かった場合、「児童発達支援（→36ページ）」という障害児の支援を行う通園施設や、保育所・幼稚園に通います。

学齢期・学校卒業期

小中高校の12年間は、子どもの成長にもっとも大切な時期。最近では、障害のある子どもが地域の学校で学ぶ機会が増えてきました。多くの小中学校に「特別支援学級」が置かれています。高校は、多くの場合「特別支援学校」へ通学します。最近では、地域の普通高校に通うケースも。また、普通高校に特別支援学校を併設する動きも広がってきています。放課後にはデイサービスを利用する子どもも増えています。（→42ページ）

卒業進路には、大きく「進学」「就職」「福祉サービス」の3つがあります。

また、福祉サービスには「職業訓練」「福祉的就労（→58ページ）」「生活介護（→48ページ）」などのタイプがあります。

サンクスシェア

地域でくらす❷

青年期

卒業進路と年齢に応じたくらし

仕事や生活、恋愛など、自分で決めて行動する機会が増えていきます。地域の中で自分らしくくらすための支援を上手に利用しましょう。

はたらく・かよう

学校を卒業すると、地域のいろいろなくらしが待っています。日中の過ごし方としては、会社や支援事業所で働く人、支援を受けながら安全に日中活動する人などがいます。

つきあう

仕事や趣味などを通して、好きな人ができることもあるかもしれません。お付き合いしたり、結婚したりする人もいるでしょう。知的障害のある人は結婚したり子どもを育てたりしないほうがよいと考える人もいますが、最近では障害のある人のお付き合いや結婚をお手伝いする窓口もできています。

くらす・すまう

住まいの場所もさまざまです。家族と自宅でくらす人が多いのですが、ヘルパーサービス（→80ページ）を使って一人ぐらしをする人、グループホームを利用する人（→70ページ）、入所施設（→74ページ）でくらす人もいます。

たのしむ

はたらく以外にも趣味の活動や、障害のある人自身による「本人活動」なども大切です。趣味の活動などには、外出に付き添うヘルパーのサービス（→82ページ）もあります。

サンクスシェア

高齢期

安定した地域生活のために

年齢を重ねると、健康面での不安や、家族も高齢になることで生活に大きな変化が生じます。

健康・病気

50歳くらいからは、健康のことや老後のことも心配です。知的障害のある人は、なかなか病院や人間ドックなどを利用できないという実態があります。また、運動をする機会も少ないので、肥満や成人病のリスクがあるといわれています。

介護保険サービスとの関係

障害のある人が65歳になると、それまで利用していた福祉サービスから介護保険サービスへと移ることになります。そのため利用する事業所を変わらなくてはならない人もいますが、2018年4月から「共生型（→92ページ）」というしくみができたので、同じ事業所をそのまま使える可能性もあります。

家族が高齢になると

家族の高齢化は、全国で大きな課題となっています。それまで家族がしていた各種の手続きなどができなくなることもあるため、「成年後見制度（→98ページ）」の利用も本格的に考えなければならないでしょう。

最期の場所

障害の有無に関係なく、多くの人は病院で亡くなっています。ただ、最近では入所施設やグループホームで亡くなるまで支援するケースも出てきました。

サンクスシェア